



緑薫るよい季節になりましたね。みなさんどのようにお過ごしでしょうか。今回は最近流行している風疹について話したいと思います。

## ★風疹ってどんな病気？★

風疹とは、風疹ウイルスによって起こる発疹性感染症です。潜伏期間は2～3週間で、主な症状として発疹、発熱、リンパ節の腫れがみられます。一度かかると、大部分の人は生涯風疹にかかることはありません。

従来は1～9歳の子供に多く発生していましたが、近年では海外で感染して帰国後発症する例が増え、成人男性の発症が増加しています。大人がかかると子供に比べて、発熱や発疹の期間が長く、関節痛がひどくなるなど症状が重くなり、仕事を1週間以上休まなければならなくなることもあります。

## ★先天性風疹症候群について★

妊娠初期の女性が風疹にかかると、胎児が風疹ウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障、精神や身体の発達の遅れなどの障害をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。これらの障害を先天性風疹症候群といいます。障害が起こる可能性は風疹にかかった妊娠時期により異なりますが、妊娠初期の12週未満ではその可能性が高いといわれています。この先天性風疹症候群を防ぐためにも予防接種は必要です。

**成人女性が予防接種を受けるときには妊娠していない時期に接種し、その後2ヶ月は避妊が必要です。**

## ★男性でも予防接種は必要？★

近くに妊娠中の女性がいた場合に、その赤ちゃんが風疹にかからないようにするためにも接種は必要です。また、風疹にかかると、まれに脳炎、血小板減少性紫斑病、溶血性貧血などの軽視できない合併症を起こすことがあるため、予防の面でも必要です。

平成7年(1995)の法改正で男性にも予防接種を行うようになりましたが、**それ以前に中学生だった方(現在30代～50代)はワクチンを接種していないので抗体を持っていない可能性が高いです。**そのためこの世代は5人に1人は免疫を持っていないといわれています。早めにワクチン接種をすることをお勧めします。

※以前予防接種を受けて免疫がある方が、2回接種を受けても特別な副反応はないといわれています。

※予防接種を受ける場合は、近くの小児科医や最寄りの保健所、医師会に相談することをお勧めします。